

# IT を活用し教科学習と連動した表現力の育成

－ 国語科・社会科での実践を通して －

宮崎県宮崎市立池内小学校 教諭 水野 宗市

souiti@js4.so-net.ne.jp

キーワード：教科学習, 表現力, 国語科, 社会科, IT 機器, 5 年生

## 1. 実践のねらい

昨年度より「IT の活用による表現力の育成」と「教科学習」という 2 つの視点を持ち、教科の目標を「第 1 のねらい」としながらも、その活動の中で効果的に「IT を活用して表現する場」を位置づけていくことで、教科学習の目標達成と表現力の育成を図っていくことができるのではないかと考え実践を行っている。

昨年度の反省より、IT を活用して意図的に「表現する場」を設定し、計画的に「表現する活動」を行うことで「表現力の向上」につながることを実感している。特に、本年度は、表現力という部分を国語科の内容と関連づけて「話すこと・聞くこと」「書くこと」の部分と関連させながら実践を続けた。特に、「話すこと・聞くこと」「書くこと」において、昨年度の計画を中心にしながら、項目を明確にしてその指導を行い、実践を図っていった。

## 2. 本実践でねらう表現力

本実践では、自分の思いを「言葉」や「文章」を中心として表現する力の育成を目的とする。具体的には、様々な情報を収集して、自分の考えや思いを伝えるためにそれらの情報を選択・整理し、様々な情報手段を活用して自分なりにまとめて伝えるという活動を通して、育成を図っていこうと考えた。こういった点では情報教育との関連も大きい。そこで、本実践では情報教育とも関連させ、永野教授による「情報教育の目標リスト」の特に「表現」の部分との関連を図りながら進めていった。

## 3. 実践の実際

### 3. 1 教科関連表

国語科・社会科の単元内容を吟味し発展的に「表現に関する内容」を扱っている部分を取り上げ、教科関連表を作成して実践を実施した。関連表を作成する際に、ポイントとした項目は次のような点である。

- 単元の中で、「まとめて、伝える」という部分を洗い出して作成していった。
- 学習した内容をもとに、短時間でまとめる活動ができるように配慮した。
- 洗い出した内容と様々な IT 機器を関連させていった。(様々な体験を行う)

月	類	単元名	時間	関連する学習活動	本単元での目標	目標との関連
4	国語	だいじょうぶ だいじょうぶ、水の心、山頂から (全 7 時間)	6~7 ②	好きな詩の情景が表れるような朗読発表会をする。	情景や心情を想像しながら朗読する。【ビデオ】	3-C
5	国語	伝え合おう、五年生でがんばりたいこと (全 6 時間)	3~6 ④	スピーチの組み立てを考えてメモを作り、練習をした後スピーチ会を開く。	自分の思いや考えを聞き手に分かりやすく伝える工夫をして話す。【PC~作文】	3-A 3-B
	社会	米作りのさかんな庄内平野 (全 14 時間)	13~14 ②	米作りについて学習した内容を「米作新聞」にまとめる。	米作りについて、自分なりのテーマを持ち、伝えたい内容を新聞形式にまとめることができる。【PC~インターネット、(図書、資料集等)】	3-B 3-C

《高学年部における目指す児童像とその具体的目標》

↓

高学年	自分の思いをさまざまな情報手段を活用して、効果的に表現する児童	<ul style="list-style-type: none"> <li>●集めた情報を全部写すのではなく、必要な内容だけ選ぶことができる。(3-a)</li> <li>●書いたり発表したりするとき、順序を考え内容を整理することができる。(3-b)</li> <li>●相手に伝えるために、IT 機器を活用して見やすい資料を作ることができる。(3-c)</li> <li>●相手の発表に対して質問したり、聞かれたことに対して応対したりすることができる。(3-d)</li> <li>●相手に伝えるときに、書いていることを読むだけでなく、説明を加えるなど工夫して発表することができる。(3-e)</li> </ul>
-----	---------------------------------	---

### 3. 2 基礎的事項の指導

本校児童の実態や本実践でねらっている「表現力」を考えた場合、国語科で培う力との関連が非常に大きい。本校児童の実態とも関連して考えてみたときに、日常の学習の中での話す内容、日記や作文の内容に不十分な点を感じる。教科と関連させた表現活動を取り組んでいくとともに、「話すこと・聞くこと」「書くこと」の基本的な部分の指導も効果的に実施していく必要があると前年度の実践より感じていた。

そこで、本年度は「NHK教育番組『わかる国語 読み書きのツボ5・6年生』」を学習に取り入れて、年間を通して計画的にポイントを整理して、基礎的な部分の指導を図っていくことにした。本番組は、文部科学省の「読解力向上プログラム」とも連動しながら、言語技術教育の方法も取り入れながら、論理的かつ正確に伝えることを学ぶことを目指した番組である。その点からも、本実践と関連させて実施することで有効であると考えた。

番組は、年間的に次のような構成になっている。

- 描写力を身につける
- 構文力を身につける
- 論理力をみがく
- 要約力をやしなう
- 言い換えて考える
- 批判力を高める

番組は、毎回ポイントになる内容を整理しながら進めていくので、各回で大事なことを整理していくことで「話すこと・聞くこと」「書くこと」の基礎的事項の指導として効率的に実践することができた。もちろん、番組を見せるだけでは十分でないと思うが、番組を見て気をつける点を整理しながら、本実践の内容と関連させていくことで「学ぶ場」と「活用する場」の切り分けができたと思う。

### 3. 3 授業実践

【国語，社会，総合的な学習の時間・・・池内小ニュース番組作り】

【国語科】単元：ニュースを伝え合おう	【社会科】単元：わたしたちの生活と情報
◎ 池内小のことを伝えるニュース番組をつくろう（総合的な学習の時間） →「池内小のよさ」について、自分たちが伝えたい内容をニュース番組として作成する。	
○ ニュース原稿 ○ アナウンス（話し方）の工夫	○ 番組の作り方（作業内容等） ○ 制作者の立場に立つての工夫や努力

《学習内容》

- 「池内小のよさ」を伝えるニュース番組をつくるという視点で、自分たちの学校を見直す。  
 →「ニュース内容」を決め、原稿を考えたり、取材活動をする。  
 →スタジオでの撮影，レポートの実施を行いニュース番組を製作する。  
 →編集を行い、ニュース番組を完成する。  
 →お互いのニュースを見合い「よい点」「修正すべき点」について話し合う。

《実践を行って》

各教科で学習した内容を表現する場として「ニュース番組づくり」を行うことで、児童が学習内容が活きる場を実感できた。また、ニュース番組づくりを通して、国語科としての「分かりやすい文章を書くこと」、社会科としての「放送に関わる人たちの仕事の苦労や工夫・努力」など、学習内容の定着にもつながった。

### 4. 成果と課題

- 年間を通して意図的に表現する活動を実践していくことで、表現する力の育成につながった。
- 児童は、教科学習で培った力を表現する活動の中で活用することで、教科学習の必要性を実感できた。さらに、様々な情報手段を活用することで、様々な表現活動を行うことができることを実感した。
- 児童の実態や学習指導要領とも関連して、表現するための技術となる基礎的・基本的事項の習得をより目指す必要がある。
- 他教科との関連性も考え、活用できる部分では実践を考えていく。